

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2005.2.20 No10

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ナナカマドの実

—ナナカマド考—

冬の森のアクセントの一つとしてナナカマドの実があります。森の中ばかりでなく、街中の街路樹のナナカマドも冬の風景に彩りを添えています。野鳥たちにとって2月は餌を探すのに一番苦労する時期ですが、このナナカマドは格好の糧となっています。特に、ヒヨロドリ、ツグミ、アトリ、シメ、キレンジャク、ヒレンジャクが群がっていて、その食べた跡の雪上には赤い粉や食べ残しがたくさん落ちています。

10月ごろ、赤いナナカマドの実に野鳥は立ち寄る気配はありません。この頃の実は渋みと苦みがありますが、寒さの中、低温に晒されると苦味成分が分解されるそうです。野鳥たちはこの絶妙な時期を狙って啄み始めるようです。鳥の目は人間が識別できない微妙な色の変化まで見えるといいます。ですから野鳥はナナカマドの食べ頃をしっかり判断しているのかも知れません。

一方、ナナカマド側にも秋より年が明けた2~3月に食べてもらう戦略があるようです。それは、春に寒冷地に戻る冬鳥に食べられて、寒冷地に分布を広げようとする知恵があります。いずれにせよ、ナナカマドにしても野鳥にしても持ちつ持たれつの質い関係があるのでしょう。

ナナカマドは森の中、街中の公園、街路樹など、どこにでもある木のためか、道内でこの木を市町村の木に指定しているところが34市町村（平成5年調べ）もあります。特に街路樹として植えられている路が結構ありますが、花言葉が「安全」「慎重」「用心」のことで交通事故防止の意味もこめられているのでしょう。

ナナカマドの語源は「7回窓に入れても燃えない」「窓に7昼夜いれておいても燃え残る」とか「7回焼かないと炭にならない」等からきていることですが、それほど燃えにくい木ではなく、じっくりと炭化させると備長炭の極上品になるとのことで知られています。

その他の語源の説には「ナナカマドの材で作った食器は7世代も使えるほど強い」との説もありますが、割れにくく耐久性があるため工具などの柄物材や器具材家具材に使われます。

樹皮は染料として使われ、また煎じて服用し、下痢止めや膀胱炎の薬とします。

北欧ではナナカマドの木を古くから魔除けの靈木として敬われ十字架の材料にも使われたり、小枝を水難除けにしたりするそうです。

（参考 f aura No2 ナチュラリー）



ナナカマドの実を啄むヒヨドリ

今年の雪

札幌管区気象台によると2月9日現在の札幌市の累計降雪量は414cmで、昨年同日と比較すると1.5倍で昨年の冬の降雪量397cmをすでに大きく上回っています。積雪量も1月に1mを超え、5年振りの大雪になっています。

札幌市の16年度除雪費は115億円で、一月末で65億円を使っていて、このままの降雪が続くと予算が足りなくなるそうです。

この雪は社会生活の障害になり嫌われものですが、視点をかえるとなくてはならぬものとも言えます。それは天然の貯水ダムの働きをしているからです。夏になると、その年々によって異なりますが本州、四国、九州でのダムの渇水が起き、給水制限などが起きますが、北海道の場合そのようなことはほとんど起きません。理由は、積雪が豊富な水資源となっているからです。積雪は融雪期まで貯留して、雪解けとともに流出してダムに溜っていきます。雪のマイナス面ばかり見ず、プラスの面を見ながら春を待ちましょう。

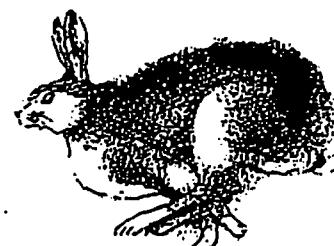
エゾユキウサギ

雪上の動物の足跡の一つにエゾユキウサギがあります。前足を縦方向に着き、その前方に大きな後足が横方向に着く「T字型」の足跡です。それと同時に糞も目にすることがあります。コロコロした固まった糞ですが、エゾユキウサギは柔らかい糞と固い糞をだし、これを食べることがわかつきました。柔らかい糞は紐状で、盲腸でバクテリアなどの発酵によって作られたタンパク質やビタミン類に富むといわれます。

ウサギの分類について、ウサギ目はナキウサギ科とウサギ科に別れます。そして、ウサギ科はアナウサギ属とノウサギ属に区別されます。ペットとして家庭や学校で飼育されているのはアナウサギの仲間です。北海道に棲むエゾユキウサギはノウサギの仲間でユキウサギの亜種です。本州、四国、九州にはノウサギとユキウサギが棲息しています。

エゾユキウサギはご存じの通り、低地から高地までさまざまな森林や草原に棲んでいて草や低木の枝や木の皮を食べています。草のない冬期間は細い枝や木の皮、笹などを食べていますが、カッターで切ったような食い痕をよく見ることができます。

エゾユキウサギは冬の間は真っ白ですが、春から秋にかけては普通褐色の色をしています。弱い動物が故の保護色の変化です。この毛が変わるメカニズムは日の長さに関係があります。秋になって日が短くなるとエゾユキウサギの目に入る光の信号が体の中の仕組みを動かし冬毛の白になり雪解けの春になると、逆の現象が体内でおこり、夏毛の褐色になるとの説明がされています。



3月の観察会は？

3月に入ると春の気配が森のあちこちに感じられます。バッコヤナギの花芽もふくらんでいます。春を探しながら野幌の森を歩きましょう。

野幌の春を探そう観察会 3月6日（日） 10:00~12:30

集合場所 大沢口 ふれあい交流館